

会議レポート

NETWORLD+INTEROP 2000 TOKYO 報告

NETWORLD+INTEROP 2000 TOKYOが6月5日～9日にかけて幕張メッセ国際会議場/展示場で行われた。この催しも今年ですでに7回目を迎えるが、筆者が初期の頃から参加して年ごとに感じることは、ネットワークが一部の専門家のもからすべての人々が使う資産へと、あるいは情報伝達的手段としてのネットワークから、人間の生活、文化を支える基盤としてのネットワークへと着実に推移している点である。筆者はこれを以前に「新社会プラットフォーム」として論じたことがあるが、まさに世は車や電話と同じ次元でネットワークというインフラを受け入れつつある。

そうした状況下にあるからこそ、キャリアなどのネットワーク提供者には一定以上の水準をクリアしたサービスを消費者に提供する義務が生じるし、また電話業者が数十年前に直面したユニバーサルサービスの観点からも論者が求められるであろう。すなわち、電話に代表されるような加入者の多寡がその利便性を決定するようなサービスにおいて、地域的、経済的な理由から不可避免的にサービスを受けない消費者「情報弱者」を生んではならないということである。キャリアがこの視点を導入できない限り、ネットワークはB to Bのフィールドに限定された過渡的な流行技術で終わってしまう危険をはらんでいる。ネットワークを確固たる社会基盤として根付かせるには、今やOSIレイヤ3、レイヤ4といった「繋ぐ」技術だけでなく、レイヤ7における「サービスの質」を確保する技術が求められているといえるだろう。

今回の国際展示でも、そうした品質管理技術の話題が散見された。今年は官庁へのDDoS (Distributed Denial of Service : 分散サービス拒否) 攻撃などの話題性からか、セキュリティに関するセッションが人気を集めていたが、来年は品質管理技術が耳目を2分することになるであろう。そこで、少し先取りをして特に印象的であったセッションC15「QoS技術の新展開と国際動向」について述べようと思う。

今や、Portal、ASP (Application Service Provider)、e-commerceは当たり前のサービスになりつつある。プレゼンターの1人である大阪大学の門林氏の意見では、たとえば電話1つと比べても、インターネット電話はすでに一般消費者の選択肢の中にさえ入っている。技術的にセンシティブとはいえない、こうした一般のユーザにとってさえ既存のSS7 (Signaling System 7) 電話網は古くて利用料金も高く、生活にマッチしないものになっているということである。確かにインターネット電話を用いれば距離に比例した従量課金という、ネットワークの世

界では傲慢とも思えるほどの利用料を払わなくて済むのである。いわゆる「合理的選択」を行う消費行動としてはむしろ当然の帰結である。すでに、IP電話網とSS7電話網の相互接続は技術的に解決されており、IP電話網を用いたSS7電話網の代替も提供されている。では、ここに欠けている視座は何だろうか？

それについて、このセッションが提示した解答が「サービスの品質」である。インターネットはそこで使用されるTCP/IPの性質上、本質的にすべての通信が平等に扱われる。そして、その技術思想の根底になるのが「ベストエフォート」である。つまり、「平等かつ保証されない通信」である。インターネットの普及期においては、この性質がプラスに作用した。すなわち安価な通信インフラであり、技術的に容易な実装であったわけである。しかし、インターネットが社会基盤として公共財の性質も併せ持つようになると、この側面に変化が生じてくる。門林氏は以下のように主張しておられた。すなわちインターネット上には現在でも膨大な量の通信が流れており、また2001年にはインターネットTVが実用化されるという状況下で、通信量が今後増えることはあっても減ることは考えられない。だが、そのどれもが重要な通信かといえばそのようなことはない。もちろん、どの通信がクリティカルかということはそれを捉える主体によって違うので一概には論じられないが、たとえばインターネット上でビジネスを行っているサイトは、顧客の通信もクラッカーの通信も同じように受け入れている。これは現実の店舗では考えられないことである。現実の店舗においては、ひやかしの客や泥棒といった層に対して本物の顧客と同じサービスを提供するというはあり得ないだろう。そうした差別化は合理的であり、当然でもある。対価を支払ってサービスを受けている顧客が、ひやかしや犯罪者と同列に扱われれば怒り出すだろう。それがまかり通っているのが、インターネットにおけるビジネスである。

筆者のような顧客の立場からすれば、いつも利用しているサイトで自分のカスタマーナンバを入力したら急に通信が速くなれば嬉しい限りであり、購買意欲も旺盛になるだろう。またサービス提供者もそれを望んでいる。しかし、既存の技術実装ではこうしたニーズは汲み取られてこなかった。これを解決するのがQoS技術である。QoSとは、Quality of Serviceの略で、ネットワーク上である特定の通信のための帯域を予約し、一定の通信速度を保証する技術の総称である。QoSはその字義にもあるように、今まで通信分岐やアプリケーションごとの帯域確保といった意味合いで論じられることが多かったが、視点を変えれば顧客と非顧客の区別をして顧客を優先処理するような使い方もできるのである。これを一歩進めれば、警察や消防への緊急通信を最優先処理するようなアプリケーションも作成できる。むしろインターネットが社会基盤として成熟し、B to C、G to Cといった使われ方に重心がシフトしていくのであればこうしたアプローチが本筋であろう。これによってSLA (Service Level Agreement) を確保し、高付加価値なIPサービスを提供することが可能になるだろう。また、この技術が主にIPヘッダのTOS (Type of service) フィールドを再定義するだけで実現されていることも特筆すべきである。既存のIP体系には変更を加えることなく、最小の工数で高付加価値IPサービスを構築していくことが可能になる。この技術によって、インターネットがさらに現実の在り様に近い社会基盤として成長していくことになるだろう。

(岡嶋裕史/富士総合研究所)

著者紹介

Kurt Mehlhorn

1974年コーネル大学大学院博士課程修了。Ph.D. 同年ザールランド大学客員教授を経て、1990年よりマックスプランク研究所(情報工学)のディレクター。データ構造、グラフアルゴリズム、計算幾何学などの研究に従事。

青山 幹雄(正会員)

1980年岡山大学大学院工学研究科修士課程修了。同年富士通(株)入社。1995年より新潟工科大学情報電子工学科教授。ソフトウェア開発方法論、開発プロセスなどに興味を持つ。1993年本会研究賞受賞。
E-mail:mikio@iee.niit.ac.jp

浅野 哲夫(正会員)

昭和52年大阪大学大学院博士課程修了。工学博士。同年大阪電気通信大学講師。平成9年北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授。計算幾何学の理論と応用に関する研究に従事。著書「計算幾何学」など。

伊藤 克亘(正会員)

1988年東京工業大学・工・情報工卒業。1993年同大学院博士課程修了。現在、電総研知能情報部。音声対話の研究に従事。工学博士。

乾 健太郎(正会員)

九州工業大学情報工学部知能情報工学科助教授。科学技術振興事業団さきがけ研究21研究員兼任。1995年東京工業大学大学院博士後期課程修了。同年同大助手。1998年九州工業大学に転任、現在に至る。博士(工学)。自然言語処理の研究に従事。言語処理学会、人工知能学会、電子情報通信学会、ソフトウェア科学会各会員。E-mail:inui@ai.kyutech.ac.jp
<http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/%7Einui>

上野山 努(正会員)

松下電器産業(株)マルチメディアシステム研究所主任技師。1993年慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程電気工学専攻修了。同年松下電器産業(株)入社。現在、トランスコーディングを中心とした動画処理技術の研究開発に従事。IEEE、電子情報通信学会各会員。E-mail:uenoyama@trl.mei.co.jp

宇都呂武仁(正会員)

豊橋技術科学大学工学部情報工学系講師。1989年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。1994年同大学院博士課程修了。博士(工学)。同年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手。1999~2000年米国ジョンス・ホプキンス大学計算機科学科客員研究員。2000年豊橋技術科学大学工学部情報工学系講師。現在に至る。自然言語処理の研究に従事。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、言語処理学会、ACL各会員。
E-mail:utsuro@ics.tut.ac.jp
<http://www.ics.tut.ac.jp/~utsuro/>

浦本 直彦(正会員)

1988年九州工科大学電子工学科卒業。1990年同大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)入社。東京基礎研究所にて、機械翻訳システム、情報検索システムなどの研究開発を経て現在、XML関連の研究開発に従事。博士(工学)。E-mail:uramoto@jp.ibm.com

太田 昌孝(正会員)

昭和34年生。昭和62年東京工業大学総合情報処理センター助手。博士(理学)。コンピュータグラフィクス、UNIX、計算の高速化、文字コード、DNS、マルチキャスト、QoS保証、超高速ルーティングなどの研究に従事。

大谷 和子

1987年より(株)日本総合研究所勤務。1996年法務部長。関心領域:知的財産権、法的責任、情報法全般。

尾股 達也

1957年生。1983年相模工業大学情報工学科卒業。富士通流通システムエンジニアリング(株)入社。1988年(社)情報サービス産業協会、1998年横浜市立大学大学院経営学修士。1999年現職。

小保方幸次(正会員)

平成10年群馬大学大学院博士課程修了。工学博士。同年北陸先端科学技術大学院大学助手。分散ネットワークと計算幾何学に関する研究に従事。電子情報通信学会会員。

加藤 安彦(正会員)

国立国語研究所言語体系研究部第2研究室長。昭和59年沖電気工業(株)入社。自然言語処理、機械翻訳等の研究に従事。EDR勤務を経て、平成3年より国立国語研究所勤務。語彙論、意味論、コーパス言語学に関する研究を行っている。E-mail:kateaux@kokken.go.jp
<http://www.kokken.go.jp/>

釜江 尚彦(正会員)

現在(財)イメージ情報科学研究技術統括としてネットワークアプライアンスアーキテクチャや高齢者のインターネット利用環境の研究開発など産学共同プロジェクトに取り組んでいる。IEEE、電子情報通信学会、画像電子学会等各会員。共著の「情報家電」(電気通信協会)がまもなく刊行される。
E-mail:kamae@tokyo.image-lab.or.jp

亀井真一郎(正会員)

NEC情報通信メディア研究本部主任研究員。機械翻訳を中心とする自然言語処理の研究・開発に従事。言語処理学会、人工知能学会、アジア太平洋機械翻訳協会各会員。
E-mail:s-kamei@cw.jp.nec.com

河原 達也(正会員)

京都大学情報学研究科助教授。1987年京都大学工学部情報工学科卒業。1989年同大学院修士課程修了。京大博士(工学)。1995年から1年間米国ベル研究所客員研究員。1998年ATR音声翻訳通信研究所客員研究員。1999年国立国語研究所非常勤研究員。音声認識・理解の研究に従事。

黒橋 禎夫(正会員)

1966年生。1989年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。1994年同大学院博士課程修了。博士(工学)。同年同大工学部助手。1998年同大学院情報学研究科講師。現在に至る。1994年より1年間Pennsylvania大学客員研究員。自然言語処理、知識情報処理の研究に従事。

河野 隆一(正会員)

1957年大阪大学工学研究科(修士)修了。三菱電機、菱電運輸(現三菱電機ロジスティクス)を経て、1994年(株)インテック代表取締役副社長、現在相談役。情報サービス産業協会2000年問題委員長。この間西暦2000年問題に関する顧問会議作業部会委員なども務めた。

小松 大実

1991年早稲田大学大学院理工学研究科修了。同年日本通信衛星(株)入社。システム技術部所属(現JSAT(株))。1998年NTTサテライトコミュニケーションズ(株)出向。

坂野 鋭

1988年中央大学理工学部物理学科卒業。1990年埼玉大学大学院理学研究科物理学専攻

博士前期課程修了。同年(株)NTTデータ入社。以来、統計的パターン認識、文字認識、バイオメトリクスの研究開発に従事。電子情報通信学会、応用数学会、日本物理学会各会員。

宍戸 周夫

1948年生。1971年上智大学法学部卒業。同年日刊工業新聞社入社。出版局編集長、編集局編集委員。1997年よりフリーランス・ジャーナリスト、テレメディア代表。著書「マイクソフトの真実」、「データウェアハウス」、「エンタープライズ・コンピューティング」等。

白井 清昭(正会員)

東京工業大学大学院情報理工学研究科助手。1998年同大学院博士後期課程修了。同年同大助手。現在に至る。博士(工学)。自然言語処理に関する研究に従事。言語処理学会会員。
E-mail:kshirai@cl.cs.titech.ac.jp

新貝 哲昌

1990年防衛庁退官。同年(株)日本製鋼所入社。企画管理室長。情報システム本部副本部長。1998~1999年三井情報システム協議会会長。1999年日鋼商事(株)顧問。

関口 智嗣(正会員)

1959年生。1982年東京大学理学部情報科学科卒業。1984年筑波大学大学院理工学研究科修了。同年電子技術総合研究所情報アーキテクチャ部主任研究員、1999年より工業技術院先端情報計算センター兼職。並列数値アルゴリズム、計算機性能評価技術、クラスタシステム、ハイエンドコンピューティング、グローバルコンピューティングに興味を持つ。日本応用数学会、ソフトウェア科学会、日本計算工学会、SIAM、IEEE CS各会員。

妹尾 稔

名古屋商科大学経営情報学科教授。情報システム。著書「情報化戦略あなたが主役」、「SE育成読本」。経営情報学会、品質管理学会、プロジェクト管理学会各会員。
E-mail:mini@nucba.ac.jp

高田 寛

NECネットワーク開発研究所。1989年電気通信大学計算機科学科卒業。同年日本電気マイコンテクノロジー(株)入社。1995年日本電気(株)ネットワーク技術研究所勤務。2000年4月組織改正により現所属。社内ネットワークの構築運用ならびにセキュリティの向上、不正侵入防止技術の研究に従事。

武田 一哉(正会員)

昭和60年名古屋大学工学研究科博士課程(前期課程)修了。同年国際電信電話(株)入社。昭和61年(株)ATR自動翻訳電話研究所出向。昭和63~平成元年マサチューセッツ工科大学滞在研究員。平成2年国際電信電話(株)復職。平成7年より名古屋大学助教授。日本音響学会、電子情報通信学会、IEEE各会員。

田中 穂積(正会員)

東京工業大学教授。1966年東京工業大学大学院理工学研究科修了。同年通商産業省電気試験所入所。1983年東京工業大学工学部助教授。1986年同教授。音声・自然言語理解の研究に従事。監修「自然言語処理技術-基礎と応用」(電子情報通信学会)。
E-mail:tanaka@cl.cs.titech.ac.jp
<http://tanaka-www.cs.titech.ac.jp/>

田中 慶彦

1985年筑波大学大学院理工学研究科修了。同年(株)東芝入社。1990年日本通信衛星(株)入社。システム技術部所属(現JSAT(株))。1996年日本デジタル放送サービス(株)

(SkyPerfecTV!) 出向。1999年NTTサテライトコミュニケーションズ(株)出向。

長 健二郎(正会員)

1984年神戸大学工学部卒業。同年キヤノン(株)入社。1993年コーネル大学コンピュータサイエンス学科修士課程修了。1996年より(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所勤務。ネットワーク関連の研究。特にインターネットにおけるQoS通信の研究に従事。

E-mail:kjc@csl.sony.co.jp
http://www.csl.sony.co.jp/~kjc/

徳永 健伸(正会員)

1961年生。1983年東京工業大学工学部情報工学科卒業。1985年同大学院理工学研究科修士課程修了。同年(株)三菱総合研究所入社。1986年東京工業大学大学院博士課程入学。現在、同大学院情報理工学研究科助教授。博士(工学)。自然言語処理、計算言語学、情報検索などの研究に従事。人工知能学会、計量言語学会、ACL、ACM SIGIR 各会員。

中尾 政之

東京大学大学院工学系研究科助教授。現在はナノ・マイクロ加工、加工の知能化、科学器械の微細化などの研究に従事すると同時に、実物を作り、それを動かす実験を通して、技術の本質をつかむよう、学生を指導している。著書「実際の情報機器技術」(日刊工業新聞社、1998)、「技術者と海外生産」(日刊工業新聞社、1993)、「設計のナレッジマネジメント」(日刊工業新聞社、1999)。

中村 逸一

1985年茨城大学工学部情報工学科卒業。1987年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年(株)NTT入社。1988年NTTデータへ転籍。以来、セキュリティシステムの企画開発、情報セキュリティ技術の研究/開発に従事。

中村 薫

昭和23年生。東京都出身。昭和47年東京大学法学部卒業。同年通産省入省。昭和61年JETROプラッセル事務所長。平成元年通産省中小企業庁企画振興課長。平成2年同省機械情報産業局情報振興課長。平成4年同省環境立地局立地政策課長。平成6年徳島県警察本部長。平成8年通産省通商政策局総務課長。平成9年同省工業技術院総務部長。平成11年内閣二千年対策室長(内閣審議官)。

畑村洋太郎

東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻・教授。ナノ・マイクロ加工、力センサ、加工の知能化、医学支援工学、技術の伝承と教育の方法論を研究し、実際の設計研究会を主宰し創造設計原理の研究を行っている。主

な編・著・訳書「実際の設計」、「続・実際の設計」、「続々・実際の設計」、「TRIZ入門」、「実際の情報機器技術」、「設計のナレッジマネジメント」、「設計の原理」他。

林 泰樹(正会員)

昭和50年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。同年日本電信電話公社(現NTT)入社。平成12年よりNTTコミュニケーションウェア(株)システムコンサルティング部に所属。平成7年本会山下記念研究賞受賞。

原田 暉(正会員)

1964年横浜市立大学商学部経済学科卒業。同年三菱信託銀行入社。1983年以降同社の情報処理部門のコンサルタントに就任。1994年筑波大学大学院修士課程修了(経営システム科学)。ACM、IEEE 各会員。
E-mail:CXQ00455@nifty.ne.jp

朴 泰祐(正会員)

1984年慶應義塾大学卒業。1990年同大学院博士課程修了。工学博士。現在、筑波大学電子・情報工学系助教授。超並列計算機アーキテクチャと高性能計算における性能評価の研究に従事。電子情報通信学会、IEEE 各会員。

前川 徹(正会員)

1955年生。名古屋工業大学情報工学科卒業。1978年通産省入省。機械情報産業局情報政策企画室長、JETRO New York センター産業用電子機器部長、情報処理振興事業協会セキュリティセンター所長を経て、1999年早稲田大学国際情報通信研究センター客員教授。

松岡 聡(正会員)

東京工業大学情報理工学研究科数理・計算科学専攻助教授。高性能並列ソフトウェアシステム、高性能オブジェクト指向システム、グローバルコンピューティング、大規模コモディティクラスなどが現在のプロジェクト。

松下 温(正会員)

昭和38年慶應義塾大学工学部電気卒業。昭和43年イリノイ大学大学院コンピュータサイエンス専攻修了。平成元年慶應義塾大学計測工学科教授、平成7年同大情報工学科教授。マルチメディア通信、コンピュータネットワーク、グループウェアなどの研究に従事。本会理事、マルチメディア通信と分散処理研究会主査、グループウェア研究会主査、電子情報通信学会情報ネットワーク研究会委員長、MIS研究会委員長、バーチャルリアリティ学会サイバースペースと仮想都市研究会委員長などを歴任。郵政省、通産省、建設省、農水省、都市基盤整備公団、行政情報システム研究所などの委員長、座長、委員を多数歴任。著書「やさしいLANの知識」(オーム社)、「201x年の世界」(共立出版)など多数。1993

年本会Best Author賞、1995年本会論文賞受賞。電子情報通信学会、人工知能学会、ファジイ学会、IEEE、ACM 各会員。

松本 裕治(正会員)

1955年生。1977年京都大学工学部情報工学科卒業。1979年同大学院工学研究科修士課程情報工学専攻修了。同年電子技術総合研究所入所。1984~1985年英国インペリアルカレッジ客員研究員。1985~1987年(財)新世代コンピュータ技術開発機構に出向。京都大学助教授を経て、1993年奈良先端科学技術大学院大学教授。現在に至る。工学博士。専門は自然言語処理。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、言語処理学会、認知科学会、AAAI、ACL、ACM 各会員。

三川 荘子

1997年慶應義塾大学入学。村井研究室にてインターネット基盤を利用した新しい高等教育のあり方を検証するSchool of Internetプロジェクト(http://www.soi.wide.ad.jp/)に参加。E-mail:funuya@sfc.wide.ad.jp
http://www.sfc.wide.ad.jp/~funuya

村瀬 亨(正会員)

1976年京都大学工学部卒業。住友電気工業入社。シスエレ研開センター所属。DSLをはじめとするアクセスネットワークの開発に従事。電子情報通信学会、ACM 各会員。

森口 稔(学生会員)

テクニカルコミュニケーター。英語教師、雑誌記者、機械翻訳アドバイザー等を経てシャープ入社。大阪府立大学人間文化科学研究科博士課程在学中。研究題目は「日本語のわかりやすさ」。

E-mail:moriguch@cow.nara.sharp.co.jp

行武 剛

松下通信工業(株)テレコム研究所画像処理方式チームリーダー。1982年東京工業大学電子物理工学科卒業。1984年同大学院物理情報工学専攻修士課程修了。同年松下通信工業(株)入社。以来、画像符号化方式の研究に従事。現在、同社ワイヤレスソリューション研究所にて無線画像通信機器の開発を行う。
E-mail:Takeshi.Yukitake@yrp.mci.mei.co.jp

渡辺 貞(正会員)

1966年東京大学工学部電子工学科卒業。1968年同大学院工学系研究科修了。同年日本電気(株)入社。大型メインフレーム、スーパーコンピュータSXシリーズの開発に従事。現在、高性能コンピュータの製品計画・マーケティング担当。日本計算工学会、電子情報通信学会、IEEE 各会員。

おぼいすらん

5月の連休からヌマエビを飼っている。以前、ホームセンターでお目にかかって以来心を奪われ、車に網を積んで探していたのだが、念願叶い、熊本の湧き池で見つけることができた。透明で、体長わずか2cmほどのエビだ。水槽代わりのペットボトルの水を何度も交換し、東京まで無事に5匹連れて帰って来た。よかった、なんて可愛いだろうと喜びつつ、はたと思った。あれ、エビってどうやって飼うんだろう？

周りにエビを飼う知り合いはいないし、本もない。仕方がないので、種類は違うようだが、とりあえずホームセンターのエビと同じ餌を買い、あとはエビの気持ちになって水槽作りをはじめた。しかしよく分からない。困った、生き物なので、早くなんとかしてはいけない。そこで最後の手段と、WEBで「ヌマエビ」を検索してみると、いくつかのエビページを検索できた。助かった！厚かましいがメールで質問させていただいて、飼育方法を教えていただくことができた。

こうして少しずつエビについて分かってきたのだが、どうやらエビの飼育は熱帯魚より難しいらしい。しかし「2週間持てば大

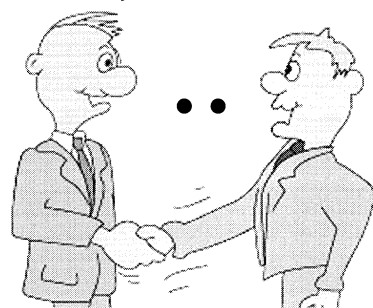
丈夫」とホームページに書いてあるとおり、水質が安定したのか今もエビたちは元気に泳いでいる。時には驚くほど早いスピードで、走ったり泳いだりしている。夜のほうが活発に動きまわるようだ。

またホームページを見ていて驚いたのだが、エビの種類とエビ愛好家の多さに驚いた。ヌマエビは水槽の苔を食べるため、熱帯魚を飼育する際、水槽の掃除屋として飼われることが多いが、ヌマエビが好きで増やしている人も多いようだ。ホームページには繁殖方法が詳しく紹介されていたり、エビ愛好家の掲示板などもあって、見るだけで私もなんとか飼えるように思え、勇気づけられる。

エビは種類によってはどんどん増えるようだ。放っておくだけで、60cm水槽になんと500匹にも増えるらしい。しかしうちのエビは残念ながら淡水では稚エビが孵らないヤマトヌマエビのようで、密かにエビのトップブリーダーを夢見る私の試行錯誤はまだ続きそうだ。

(武田紀子/情報規格調査会)

会員の広場



今月の会員の広場では、4月号と5月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。

まず、4月号の特集「ビジュアルな情報検索」に対して、以下のご意見をお寄せいただきました。

□情報検索などの今ある技術の可視化だけでなく、可視化技術すなわちインタフェース技術全体の方向性や将来についての展望がもう少し欲しいと感じました。可視化技術は、人間にとって理解しやすいようにデータを見せるのが重要な役割であるだけに、可視化範囲とデータ量の問題は重要であると思います。今後の研究の進展に期待しています。

(匿名希望)

□本号では「テキスト情報の可視化を利用した情報検索」が最も興味深い記事でした。

(匿名希望)

□情報処理を直接の専門としていない私のような(化学)読者の場合、これらのシステムがどのように活用できるか大変興味のあるところです。図の説明が図中に詳しく書いてあると実際の検索機能が直感的に分かるとと思います。図4、5、6について実際にどのように利用するのか、例を示しても詳しく知りたかった。

(立花 宏)

解説「自然のCG」技術の実用化時代については、以下のようなご意見をいただいています。

□中に紹介されているCG資料館<URL:http://www-cg.cis.iwate-u.ac.jp/>を見せていただきました。たくさんの事例が掲載されているだけでなく、論文リストまであり、とても勉強になりました。見ているだけでもおもしろいので、専門がCGでない人も楽しめます。

(匿名希望)

□解説「自然のCG」技術の実用化時代」のレイアウトとフォントについてなぜこの記事のみこのような特別なレイアウトとフォントにしたのでしょうか。非常に読みにくいし、読みたいと思わない。もちろん他にも3段組やフォントを変えている記事があることは分かっていますが、それらの目的・意図は理解できるような気がします。しかしこの記事にこのフォント、3段組の意図は分かりません。

(鈴木 弘)

その他の4月号の記事につきましても、多数のご意見をいただきました。

□コンテンツに対する著作権保護が話題にのぼることが多いですが、コンピュータで扱うコンテンツはデジタルであるがゆえに特にその技術が重要であると考えています。そのため、本号でこれらを扱った解説「著作権保護技術の動向」とコラム「情報セキュリティ歳時記」を興味を持って拝読することができました。願わくば、これらを実現している暗号などのそのものの技術的(数学的というべきで

ようか)内容の解説も入れていただきたく感じました。

(八木秀規)

□IETFのRFCに普段から「お世話になっている」にもかかわらず、IETFという組織を理解していなかった。解説「IETFって何?」はIETFの仕組みを簡潔に示してくれた。IETFの組織に関する情報は常識なのかもしれないが、私にとっては新段気にしていなかったが重要なことを教わった気がする。

(登内敏夫)

□コラム「本当のインターネットをめざして」:情報家電については、メーカーがいろいろと将来像を提案しているが、ユーザの立場から、本当に役に立つのかどうか疑問に思っていました。太田氏のお話は大変説得力がありました。

(鈴木宏正)

□コラム「乱世のアクセス・ネットワーク」:近い将来を身たとき、ラスト1マイルは、有線と無線が共存し、有線はファイバではほぼ決まりだと思います。超高速であり、かつ1度敷設してしまえば、数十年は使えるということを考えてみると、コスト的にも、対より線より安いと言えるのではないのでしょうか。

(匿名希望)

□解説「著作権保護技術の動向」では、デジタルコンテンツ流通における著作権保護技術とリサイクルマート技術について興味深く読みました。今後とも、非常に重要となるマルチメディアにおける知的所有権やビジネスモデル特許について特集を期待しています。

(永吉弘己)

次に、5月号の記事に関するご意見を紹介します。特集「40周年記念特集号」については、以下のように大変好評でした。

□40周年記念特集ということで、多分野にわたり技術的・内容だけでなく、その経緯なども紹介されていて大変興味を持って読むことができました。と同時に以前に学習したはその内容を忘れていたことに気づかせてもらう結果にもなり改めて今号のような多要素を取り上げていただくことも重宝だと感じました。また、長尾先生が「創立40周年を迎えての中で述べられている「グローバル化されてゆくとともに「一カ所性についても意識的な努力が必要」という点、自分も同様に感じております。しかしこの問題を考え出すと個人としての意見すら定まりません。ですのでこのような点についても情報処理界としてどう進んでいくべきか議論を活かしていただけたらと思います。

(匿名希望)

□40周年記念特集号ということで、非常に興味深い記事ばかりで大変読み応えがありました。特に、個々の事例について掘り下げた解説ではなく現在から将来の社会における情報処理技術のあり方や方向性を示していることで、分かりやすくまた興味をそそられる内容であったと思います。今回の集では、情報処理技術者の立場から見た今後の情報処理技術/産業のあり方についての記事を集められたと思いますが、別の機会に、情報処理技術者以外の、たとえば生物や化学、機械、化学など他の分野の技術者、さらには社会学やサービス業といった、技術系以外の方々に寄稿をお願いし、今後情報処理技術者に何を期待するか、についての集を組まれてはいかがでしょうか。我々情報処理技術者



Members' Voice

研究者も日夜今後の情報処理分野の発展の方向性を検討すべく努力しているところですが、専門外の方々の目から見た情報処理について我々が今まで以上に深く知るにより、これまで以上に研究／開発の方向性が明確になり、また新たな方向性が生まれてくるのではないかと期待されます。

(松崎元昭)

40周年記念特集号ということで第一線で活躍されている生方による内容でボリュームがありました。全体的にインターネット関連の記事が多いように感じました。今後の情報処理技術の進展が展望されており、今後の研究活動においても将来を見据えたシステムの開発を行わねばと思います。

(井上浩孝)

40周年ということで、情報処理関連のいろいろな分野の方向性が分かり良かった。特に、情報ネットワーク関係については、過去に研究に携わっていたのでなつかしく読ませていただいた。

(田中光一)

創立40周年記念特集号とのことで、情報処理の各分野の技術発展の歩みと今後の展望に関する記事が特集されており、大変興味深く読ませていただきました。

(井口雅彦)

「40周年記念特集」は内容も広範にわたり、ほとんどの記事を興味深く読みました。特に「サイバービジネスの可能性：将来動向」で述べられている第4次産業は現在のIT革命にさわしく、今後の知識集約型のITビジネスの位置づけとして、非常に参考になりました。

(永吉弘己)

辻井氏の暗号技術、渡辺氏の計算複雑さの解説は、教科書的、皮相的な解説を超えて、将来への展望を与える解説であった。

(匿名希望)

その他の5月号の記事に関するご意見を紹介します。

】コラム「教育とインタフェース」について：大学における教育と、小・中・高等学校における教育とでは、「教育」の意味が違っている点にも注目したい。文部省は、考える力を伸ばすことが小・中・高等学校における教育であるといっていますが、現実には、入学試験に受かるスキルを育成することが教育となっており、定説のない・まだ解明されていないことがらを考えるというのが大学における教育と思われ

(水野光朗)

一方、特集記事の印刷について以下のご指摘をいただ

きました。同様のご意見を多数の方から寄せていただいております。今後このようなことのないよう事務局にコメントさせていただきました。

□今月号は、奇数頁の右下部に濃い赤のマークがあり、これが記事の文字と重なり、読めません、失敗です。特に60歳過ぎの老人には、文字が小さいだけにまったく読めず、心ならずもとばして読まざるを得ませんでした。もっと薄い色にすべきでした（本件は、編集上の問題というよりは印刷上の問題だとは思いますが...）。

(岡田昌康)

その他にも、ウェブページでのアンケート項目に関する不適切な用語の使用に関するご意見などがありました。今後の参考とさせていただきますとともに、改善するよう努力いたします。

また、今後取り上げるべき内容にや改善点について以下のようなご要望、ご意見をいただいております。

□ソフトウェア開発ツールや開発環境（例：VC++）

(匿名希望)

□IT産業において拡大するコールセンターについて

(藤田兼一)

□多言語環境における機械翻訳

(匿名希望)

□読んでみたい企画：都立大学では、センターマシンに並列計算機が入っていますが、その利用者のほとんどが量子化学計算を行っています。Gaussianの利用者が最も多いのですが、並列化（LINDA）によるパフォーマンスの向上は、驚くべきものだと感じています。LINDA他の並列化ソフトの仕組みと、アプリケーションソフトとの関係などについての記事を読んでみたいと思います。

(立花 宏)

□会誌の体裁について：従来の会誌や他学会誌のように、毎ページのヘッダが標題にあると、記事を探すのに便利です。

(匿名希望)

掲載記事に関するご感想や会誌に関するご意見・ご要望は、学会ウェブページでも受け付けていますので、積極的にご投稿ください。

<URL: <http://www.ipsj.or.jp/members/Magazine/Jpn/4107/questionnaire.html>>

今後も、より良い会誌を作るため、各記事および会誌全般に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

【本欄担当 泉 正夫、峯松信明／書評・ニュース分野】

ご意見をお寄せください!!!

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、
・記事に対する感想、意見
・記事テーマの提案
・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言
など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。
前号に引き続き、今月号でも「道しるべ」に取り上げて欲しいテーマ」についてのご意見をお待ちしております。

掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F
情報処理学会 会誌担当 E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534
<http://www.ipsj.or.jp/members/Magazine/Jpn/4107/questionnaire.html>



IPSJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第32回音声言語情報処理研究会	栗津温泉	7月14日(金) ～15日(土)	6月23日(金)		41-6 会12p	研
DAシンポジウム2000	遠鉄ホテル	7月17日(月) ～19日(水)	6月20日(火)	3月9日(木) 必着	41-5 会9p	研
第138回自然言語処理研究会	会津大	7月18日(火) ～19日(水)	当日のみ		41-6 会13p	研
第121回知能と複雑系研究会	和歌山大	7月18日(火) ～19日(水)	当日のみ		41-6 会13p	研
画像の認識・理解シンポジウム MIRU2000	長野ビッグハット	7月18日(火) ～21日(金)		1月31日(月)	40-11 会26p	研
第47回人文科学とコンピュータ研究会	和歌山大	7月21日(金)	当日のみ		41-6 会14p	研
中国支部「講演会」	島根大	7月21日(金)			41-7 会15p	中
第10回コンピュータセキュリティ研究会	機械振興会館	7月25日(火)	当日のみ		41-6 会14p	研
連続セミナー2000 第2回 「次世代インターネットへの挑戦」	工学院大	7月25日(火)	定員になり次第		41-6 会19p	事
第122回データベースシステム研究会	花巻温泉	7月26日(水) ～28日(金)	当日のみ		41-6 会14p	研
第128回ソフトウェア工学研究会	情報処理学会	7月28日(金)	当日のみ		41-6 会16p	研
第59回情報学基礎研究会	学術総合センター	7月28日(金)	当日のみ		41-6 会16p	研
第24回デジタル・ドキュメント研究会	学術総合センター	7月28日(金)	当日のみ		41-6 会16p	研
第74回情報システムと社会環境研究会	松本市中央公民館 ホール	7月29日(土)	当日のみ		41-6 会16p	研
情報教育シンポジウム	戸倉上山田温泉	7月29日(土) ～31日(月)	6月20日(火) ～7月14日(金)	4月14日(金)	41-6 会18p	研
北海道支部「第10回社会と情報に関する シンポジウム」	札幌学院大	7月29日(土) ～30日(日)			41-7 会15p	北
第30回プログラミング研究会	松山市総合 コミュニティセンター	8月2日(水) ～3日(木)	当日のみ		41-7 会5p	研
第131回計算機アーキテクチャ研究会	松山市総合 コミュニティセンター	8月3日(木) ～5日(土)	当日のみ		41-7 会5p	研
第82回ハイパフォーマンスコンピュー ティング研究会	松山市総合 コミュニティセンター	8月3日(木) ～5日(土)	当日のみ		41-7 会6p	研
第85回システムソフトウェアと オペレーティング・システム研究会	松山市総合 コミュニティセンター	8月4日(金)	当日のみ		41-7 会7p	研
第36回音楽情報科学研究会	香川大	8月5日(土) ～6日(日)	当日のみ		41-7 会7p	研
IFIP「第16回世界コンピュータ会議」	中国北京	8月21日(月) ～25日(金)		1月10日(月)	40-7 会18p	事
東北支部「平成12年度電気関係学会 東北支部連合大会」	会津大	8月24日(木) ～25日(金)		6月15日(木) 必着	41-6 会25p	東
音声認識セミナー	会津大	8月28日(月) ～30日(水)	7月17日(月) 定員になり次第		41-6 会19p	研
オブジェクト指向2000シンポジウム	明大	8月30日(水) ～9月1日(金)	8月18日(金)	論文:3月24日(金) デモ:6月12日(月)	41-7 会9p	研
夏のプログラミング・シンポジウム 「計算機と表現」	六甲ハウス	8月30日(水) ～9月1日(金)	7月14日(金)	6月16日(金)	41-4 会33p	事
システム・デザインの社会的文脈講演会	東洋大	9月6日(水)	定員になり次第		41-7 会10p	研
第33回情報科学若手の会	草津セミナーハウス	9月10日(日) ～12日(火)	7月31日(月) 必着		41-6 会21p	事
平成12年電気・情報関連学会 連合大会	工学院大	9月12日(火)			41-5 会11p	事
九州支部「電気関係学会九州支部 第53回連合大会」	九州産業大	9月13日(水) ～14日(木)		7月21日(金) 17時必着	41-7 会15p	九
東海支部「平成12年度電気関係学会 東海支部連合大会」	静岡大	9月16日(土) ～17日(日)		7月4日(火) 消印有効	41-7 会15p	海
Enterprise Distributed Object Computing (EDOC 2000)	幕張	9月25日(月) ～28日(木)		5月6日(土)	41-7 会10p	事
連続セミナー2000 第3回 「インターネットとビジネス」	工学院大	9月26日(火)	定員になり次第		41-6 会19p	事

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
情報処理学会第61回全国大会	愛媛大	10月3日(火) ～5日(木)	8月31日(木) 必着	6月23日(金)	41-7 会4p	事
四国支部「平成12年度電気関係学会四国支部連合大会」	高知工科大	10月14日(土)		8月14日(月) 必着	41-7 会16p	四
The Second International Working Conference on Active Networks (IWAN 2000)	東京	10月16日(月) ～18日(水)		4月14日(金)	41-2 会27p	事
創立40周年記念式典	虎ノ門バストラル	10月20日(金)			40-12 本1250p	総
中国支部「平成12年度電気・情報関連学会中国支部連合大会」	岡山大	10月21日(土)		8月4日(金) 必着	41-7 会16p	中
北海道支部「平成12年度電気関係学会北海道支部連合大会」	北大	10月21日(土) ～22日(日)		8月25日(金) 17時必着	41-7 会17p	北
コンピュータセキュリティシンポジウム 2000 (CSS2000) シンポジウム	学術総合センター	10月26日(木) ～27日(金)		8月11日(金)	41-7 会11p	研
人文科学とコンピュータシンポジウム『デジタルアーカイブ』	立命館大	12月15日(金) ～16日(土)		9月14日(木)	41-7 会11p	研
連続セミナー2000 第4回「インターネットと教育」	工学院大	12月18日(月)	定員になり次第		41-6 会19p	事
The 2001 Symposium on Applications and the Internet SAINT-2001	San Diego, California (USA)	平成13年 1月8日(月) ～12日(金)		5月1日(月)	41-3 会8p	事
第42回プログラミング・シンポジウム	箱根ホテル小涌園	1月9日(火) ～11日(木)		8月25日(金)	41-7 会11p	事
2001年情報学シンポジウム	日本学術会議講堂	1月18日(木) ～19日(金)		9月15日(金) 必着	41-7 会12p	研
連続セミナー2000 第5回「インターネットと生活」	工学院大	1月26日(金)	定員になり次第		41-6 会19p	事
情報システムと社会環境シンポジウム	国学院大	1月26日(金)		9月14日(木) 必着	41-7 会13p	研
連続セミナー2000 第6回「インターネットと使い易さ」	工学院大	2月13日(火)	定員になり次第		41-6 会19p	事
インタラクシオン2001	早大	3月5日(月) ～6日(火)		10月13日(金)	41-7 会14p	研
The Fifth International Symposium on Autonomous Decentralized Systems (ISADS 2001)	Dallas, Texas (USA)	3月26日(月) ～28日(水)		8月15日(火)	41-6 会23p	事
INTERACT2001	早大国際会議場	7月9日(月) ～13日(金)		11月20日(月)	41-5 会12p	事
論文誌投稿締切		発行予定月		論文/応募締切	掲載頁	担当
論文誌特集号「システムLSIの設計技術と設計自動化」		平成13年4月		9月14日(木)	41-5 会14p	論
論文誌特集号「並列処理」		平成13年4月		8月31日(木)	41-6 会24p	論
論文誌特集号「コンピュータグラフィックスの新展開」		平成13年5月		9月30日(土)	41-3 会9p	論
論文誌特集号「次世代インタラクシオンのための情報技術」		平成13年6月		10月31日(火)	41-5 会14p	論
論文誌特集号「ITSとモバイルコンピューティング」		平成13年7月		11月30日(木)	41-7 会13p	論
論文誌特集号「21世紀のコンピュータセキュリティ技術」		平成13年8月		11月30日(木)	41-6 会24p	論
その他				応募締切	掲載頁	担当
会誌「Best Paper of '90s賞」推薦募集				7月31日(月)	41-7 本892p	編
平成13年度会誌表紙デザイン募集				9月30日(土) 消印有効	41-7 会17p	編

- 記1) カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています。
記2) 研究会の発表申込締切は開催日の90日前です。年間予定表および研究会発表申込書は2, 4, 8月号付録(会告)に掲載されています。
記3) 担当欄の記号は次のとおりです。研: 調査研究, 事: 事業, 国: 国際, 論: 論文誌, 編: 会誌, 総: 総務, 経: 経理, 会: 会員,
規: 情報規格調査会, 北: 北海道支部, 東: 東北支部, 海: 東海支部, 陸: 北陸支部, 西: 関西支部, 中: 中国支部, 四: 四国支部, 九: 九州支部。
各行事についての問合せ等は担当までお願いします。
記4) 掲載頁欄の記号は次のとおりです。本: 本誌, 会: 会告(付録), 全大: 全国大会プログラム(付録)

賛助会員入会のおすすめ

本学会では日々発展し続ける情報メディア分野の先駆者として、会員の方々を中心に、学界・官界および産業界のご支援を得て、調査研究、論文発表、国際会議開催などの活動を続けております。お近くに、入会をご希望の方および企業・団体がいらっしゃいましたらご紹介ください。

- 資 格 本会の目的事業に賛同される方または団体
- 会 費 1口 50,000円/年間 *何口でも加入可
- 特 典
1. 口数に応じて会誌「情報処理」の配布数が変わります。また、研究会登録の優遇制度があります。
 2. 全国大会、研究発表会、セミナー、シンポジウム等に正会員に準じて会員特価で参加できます。
 3. 本学会編集図書が会員特価で購入できます。
 4. 賛助会員名簿の無料配布、賛助会員名の会誌掲載、ホームページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) での公開。
 5. 会誌「情報処理」(約30,000部/月)の会告に人材募集記事が掲載できます。
- 照 会 先 情報処理学会 会員担当

★主要賛助会員（順不同）

- <10口以上>： 日本電信電話（株）、日本電気（株）、（株）日立製作所、三菱電機（株）、日本アイ・ピー・エム（株）、（株）東芝、富士通（株）、（株）NTTデータ、NTTコミュニケーションウェア（株）、NTT移動通信網（株）
- <5～9口>： 沖電気工業（株）、日本ユニシス（株）、東京電力（株）、アンリツ（株）、（株）日立マイクロソフトウェアシステムズ

「会誌Best Paper of '90s賞」
推薦のお願い 会誌編集委員会



創立40周年を記念して、会誌の1990年代の記事の中から優秀な記事を数編選定し、「会誌Best Paper of '90s賞」として記念式典で表彰いたします。つきましては、会員の皆様に推薦をお願いいたします。

なお、過去の全記事は<http://www.ipsj.or.jp/members/Magazine/Jpn/index.html>に掲載しています。また、過去にBest Author賞を受賞した受賞者名と記事表題の一覧を<http://www.ipsj.or.jp/other/awardkaishi.htm>に掲載しました。

お一人何件でも推薦できますので、奮ってご推薦ください。

- 推薦対象 会誌「情報処理」（1990年1月号～1999年12月号）に掲載された記事。
- 選定基準 現在の情報処理技術に影響を与えている記事であり、現在読んでも面白いもの。
- 推薦方法 推薦する記事については、以下の事項を明記して下記照会先まで郵送、FaxまたはE-mailにてお送りください。
- ・記事表題
 - ・著者名（共著の場合は代表著者名）
 - ・掲載年月
 - ・推薦理由（200字くらい）
 - ・推薦者名と会員番号

推薦締切 平成12年7月31日（月）

選考方法 会誌Best Paper of '90s賞選定委員会が5編程度を選定し、理事会において決定する。

賞の贈呈 平成12年10月20日の創立40周年記念式典で表彰（賞状および賞金10万円を贈呈）。

送付先/照会先 情報処理学会 会誌部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534

有 料 会 告 に つ い て

本会の共催行事および協賛・講演記事の次第書（論文募集，参加案内など）の会告欄掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。なお，会議案内欄への掲載については従来どおり無料です。

記

1. 掲載条件

件 名	内 容	掲載単位	掲載料金（消費税別）
論 文 募 集 参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショップ，講演会，講習会などの論文募集・参加者募集に限る。	1ページ または 1/2ページ	(主催) 1ページまで 無料
			(共催) 1ページ 50,000円
			(協賛) 1/2ページ 30,000円
			(協賛) 1ページ 100,000円
(協賛) 1/2ページ 50,000円			
人 材 募 集	国公立教育機関，国公立研究機関，企業の人材募集	10行程度	(国公立教育機関，国公立研究機関) 20,000円
			(賛助会員（企業）) 30,000円
			(賛助会員以外の企業) 50,000円

2. 申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

3. 原稿の書き方

●行事次第書：原則としてA4判カメラレディとします。

(1ページ) 天地250mm × 左右160mm (1/2ページ) 天地120mm × 左右160mm

*A4判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。なお，原稿作成にあたり様式（字の大きさ，ゴシックなど）については，本会会告記載内容をご参照願います。

また，フロッピーディスクまたはE-mailでも受け付けますので，ご相談ください。

●人 材 募 集：次の項目を明記し，E-mailまたはFax，郵送にてお送りください。

*なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

[募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]

4. 申込期限

毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

5. 掲載料金

掲載号発行日に請求書等を送付いたしますので，3カ月以内にお支払いください。

6. 掲載申込先

(社) 情報処理学会 会誌担当 (有料会告係)

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534

蒸し暑い日が多くなりましたね。真夏の太陽もよいのですがこう蒸し暑いと、最近やっと習慣となってきたウォーキングに影響がでるのではと懸念しています。実は、ここ3か月ほど週に3日ほどのペースで仕事帰りに電車に乗らず途中まで歩くことにしているのです。わたしは都営三田線を利用しているのですが、規格部門のある機械振興会館を出て御成門、内幸町、日比谷と歩きます。ここまでで約40分ぐらいでしょうか。まだ、日がある時間ならば日比谷公園の噴水や歌壇の周りでくつろぐのもいいですね。鳥の糞には要注意ですが、さらに元気のある日はまた日比谷通りをずっと皇居のお堀にそってテクテクと歩き、大手町を通りすぎさらに神田橋を左に折れて白山通りにはいり神保町、ついには水道橋まで行ってしまいます。ここまで行くと決して早いとはいえないわたしの足だと約1時間半です。こんなことで時間をついやしていいのか、他にやること

がいっぱいあるのと思う日もありますが、体重約2キロ減少というよいこともあります。また、これまで何年東京にいても電車に乗るばかりで道がさっぱりわからなかったのですが、最近少し道を憶えました。これからは、タクシーに乗っても、運転手さんに「あっ、これって遠回りじゃないですか？」とチェックをいれることもできますね。続けていけば、もっとよいこともあるかもしれません。体力面のほかにもウォーキングのような軽い運動中はα波が出るとかで、ストレス解消に効果があると聞いたことがあります。また、集中力も増すようです。歩きながら仕事に役立つよいアイデアが浮かぶってこともあるかもしれません。皆様、気分転換の方法いろいろと工夫していると思いますが、ウォーキング、お勧めです。

(木村敏子/情報規格調査会)

書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。
 - a) 書評—過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
 - b) 会議レポート—情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。
2. 応募資格 原則として本学会員に限ります。
3. 応募の手続き
 - 1) 表題—書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
 - 2) 評者名(会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先(住所、E-mail、Faxなど)の記載を忘れずに。
 - 3) 本文—書評、会議レポートとも2100字前後で書く。
 - 4) (必要であれば)参考文献、付録、図、表をつける。

詳しくは「情報処理学会機関誌原稿執筆案内」(2000年3月号会告掲載)を参照してください。
4. 原稿の取扱い 投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

訂正

本誌5月号(41巻5号)に掲載されました特集「40周年記念特集号」のうち「4. 1990年代の学会活動—大成長期～バブル崩壊～縮小均衡経営～新世紀へ—」の中に誤りがありました。お詫びして訂正します。

- 482p.「学会運営企画委員会」の委員長名
(誤)小林亨委員長 (正)小林亮委員長
- 487p.左段下から10行目:第52回全国大会
(誤)1995年前期 (正)1996年前期
- 487p.中段下から7行目:第54回全国大会
(誤)1996年前期 (正)1997年前期
- 487p.右段上から9行目:第56回全国大会
(誤)1997年前期 (正)1998年前期

同5月号に掲載されました特集「40周年記念特集号」のうち「5.5 TCP/IPとインターネット」の中に誤りがありました。重ねてお詫びして訂正します。

- 516p.図-1の右端国際関係の図中 (誤)「1996 石田晴久氏, ISOC理事に」 (正)「1992 石田晴久氏, ISOC理事に」

ご意見をお寄せください!

【8月10日頃までにお出しく下さい】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/magazine/Jpn/4107/questionnaire.html>

Fax(03)5484-3534 E-mail:editj@ipsj.or.jp (E-mailで送信される場合は、7-1-aのようにコードでお答えください)

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 性別: (a) 男性 (b) 女性 4-
5. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ 5-
6. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります。その場合:
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 6-
7. 今月号 (2000年7月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
(あなたの評価は年度のBest Author 賞選定の際の資料となります。評価は以下の5段階評価をお願いします。)
[a...大変参考になった b...よい c...普通、どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない]

[ページ]

【特集】ここまでの自然言語処理

- 763 例文を使って文の解析をしよう 7-1-
- 769 コーパスが先か、パーサーが先か 7-2-
- 774 大きなコーパスを共有しよう 7-3-
- 781 どうすれば、データ共有を成功させることができるか 7-4-
- 787 言語コーパスをより有効に使うために 7-5-
- 793 コーパスに基づく言語処理の限界と展望 7-6-

【特集】西暦2000年問題を振り返って

- 798 西暦2000年問題を振り返って 7-7-
- 801 我が国における西暦2000年問題対策を振り返って 7-8-
- 803 情報サービス産業における西暦2000年問題対応を振り返って 7-9-
- 807 西暦2000年問題の法律的側面を振り返って 7-10-
- 810 ユーザ企業から見た西暦2000年問題 7-11-
- 812 電気通信分野における西暦2000年問題対応を振り返って 7-12-

【解説】

- 816 認証技術の現在と未来 7-13-
- 826 連載解説: マルチメディアホームコンピューティングの未来-第1回 家庭の情報化の主役は何か 7-14-
- 831 連載解説: 次世代インターネット研究開発の最前線 1. アドホックネットワーク構築技術 7-15-
- 848 動画のリアルタイムフォーマット変換 7-16-
- 854 LEDA: 複雑なアルゴリズムも簡単にプログラム化できる魔法のツール 7-17-
- 862 設計者が欲しい設計支援システムの開発 7-18-

【道しるべ】

- 874 XMLあれこれ 7-19-

【連載】

- 837 放送と情報処理: 通信衛星を利用した広帯域インターネットサービス 7-20-
- 877 インタラクティブ・エッセイ: これでいいのか? 日本のスパコン 7-21-

【コラム】

- 824 情報技術の新時代に向けて: テレコム文化とコンピュータ文化の衝突 7-22-
- 844 本当のインターネットをめざして: ライフラインとしてのインターネット 7-23-
- 846 乱世のアクセス・ネットワーク: ライン・シェアリングの実現で本格化するADSLによる高速データ通信 7-24-
- 868 SEの知恵袋: I Love Youに大きな落とし穴 7-25-
- 870 米国インターネット事情: ネット株急落の中でも伸びるベンチャー企業 7-26-
- 872 現代・コンピュータ市場: 日本が復活するノンPC時代 7-27-

8. 特に興味を持ってお読みになった記事・著者への質問・取り上げて欲しいテーマなどをお書きください。
また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマを募集しています。

「情報処理の広汎な分野の会員にとって読みやすく分かりやすい記述を追求する」という会誌の編集方針に従い、タイトルや内容を考えたつもりであるが、どうだっただろうか。ただし、自然言語処理研究者にも興味を持って読んでもらえるよう、第5編だけは、比較的掘り下げた話題になっている。当該分野以外の読者の方にはお許し願いたい。

自然言語処理は曖昧さとの戦いである。私が自然言語処理研究を始めた頃は、曖昧さ解消のための語彙知識やそれに基づく制約、あるいは経験則を利用した処理が主流であり、これらの規則を手で収集していた。自然言語処理システムの精度向上のためには、これらの規則を追加する必要があるが、規則の追加により、ある文に対する処理は正しく行われるようになるものの、他の文の処理に悪影響がある場合もあるため、苦勞の割には報われない。計算機メカはいざ知らず、大学の一研究室レベルで、明らかな精度向上が期待できるほどに、規則を追加するのは困難である。幸い、私の所属していた研究室では、早くから統計モデルに基づいた処理を行っており、規則追加の苦勞は味わわなくて済んだが、学習データは貧弱で、

さらに、解析結果をこれまた人手でチェックする必要がある、大変苦勞したのを覚えている。計算機メカでも、人と資金の規模こそ違え、状況は同じであったのだろう。当初は、自然言語処理技術に高い期待を寄せていたが、注ぎ込んだ人と資金の割には大きな進歩は得られず、沈滞ムードが漂ってきていた。

ところが、インターネットの発展に伴う情報の洪水、大規模な言語コーパスの普及、計算機ハードウェアの進歩といった自然言語処理を取り巻く状況の変化により、1990年前後から本特集で述べたような『コーパスに基づく自然言語処理』の研究が盛んに行われるようになり、再び自然言語処理技術に対する期待が高まってきている。現在は、少なくとも研究目的であれば、大規模な言語コーパスを入手することができ、自然言語処理システムを1人ででも比較的容易に構築することができる、十数年前から考えると夢のような状況である。自然言語処理技術を研究する環境としては確実に進歩してきたといえる。本特集に興味を持った読者から自然言語処理に対する新しい進展が起こることを期待する。

(富浦洋一／本特集エディタ)

次号(8月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」情報検索システムのかくらべテストコレクションによる評価一

情報検索技術とテストコレクション／日本におけるテストコレクションと評価の動向：IREX／情報検索研究者にとってのテストコレクションと評価ワークショップ／インターネット上の検索システム技術の実際と評価の問題／NTCIR Workshop 2の新しいタスクの紹介／今後の展望

解説

ナチュラルコンピューテーション	横森 貴
シングルチップMPEG-2ビデオエンコーダと応用システム	遠藤 真 他
やさしいハードの話：コンピュータと環境問題	堀江恒男
次世代インターネット研究開発の最前線 2. アドホックネットワーク構築技術	大江将史 他
マルチメディアホームコンピューティングの未来—第2回 エンタテインメントに必要な性能—	釜江尚彦

事例

CAD/CAM/CAEを中核としたデジタルエンジニアリングプロセス実現への取組み	高田良祐
道しるべ	
並列プロセス計算の基礎と研究動向	富樫 敦

連載 インタラクティブ・エッセイ／放送と情報処理

コラム SEの知恵袋／現代・コンピュータ市場／情報技術の新時代に向けて／米国インターネット事情／本当のインターネットをめざして／乱世のアクセス・ネットワーク

◆広告料金表

掲載場所	色	スペース	料金(円)
表紙2	4	1	330,000
表紙3	4	1	275,000
表紙4	4	1	385,000
表2対向	4	1	300,000
前付	4	1	275,000
前付	2	1	165,000
前付	1	1	135,000
前付	1	1/2	80,000
前付最終	1	1	148,000
目次前	1	1	148,000
差込み (A判70.5kg未満)		1丁	275,000
差込み (A判70.5kg～86.5kg)		1丁	350,000

◆体裁

判型	A4判
発行部数	30,000部
発行日	毎月15日
印刷方法	オフセット

◆広告原稿

申込締切日	前月10日
原稿締切日	前月20日
原稿寸法	1P 天地260mm×左右180mm
	1/2P 天地125mm×左右180mm
原稿形態	ポジフィルム

*上記料金には、消費税は含まれておりません。断切広告は上記料金の10%増です。

*広告は、コート紙を使用して印刷いたします。

*表紙4のサイズは、天地260mm×左右180mmです。